

平成23年度 第1回宮崎県社会教育委員会議 議事録

平成23年7月27日(木)
県電ホール
午前10時から12時まで

【協議】

「第二次教育振興基本計画」「施策の目標Ⅰ 家庭や地域の教育力の向上」【施策2 家庭や地域の教育力の向上】について (司会：森山議長)

- 黒木委員 ○ 「ノーメディア・デー」に関して、私が子どもの頃は、「まんが日本昔話」のように心があたたかくなる番組があったが、今はそのような番組はあまりないような気がする。子どもたちに見せたい、教育によい番組を放映してほしいと思うが、いかがか。
- 福田委員 ○ その議論をすると、時間を要するので、「ノーメディア・デー」を自分なりに考えてみた。基本計画に書かれた「ノーメディア・デー」だが、その言葉が生まれた時代状況は理解できるものの、「メディアは、ノー(拒否)」というメッセージの強さが、今の時代にマッチするのか、誤解される恐れはないか、懸念する。
- 今、テレビやパソコンを含めたメディア状況は激変しており、ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアとの融合が起きている。能動的な情報収集、圧倒的な情報のやり取りは当たり前となり、この動きは止まらない。メディアツールを拒絶する姿勢だけをアピールするのではなく、いかに主体的に考えリスクを見極め、使いこなすかを指摘すべきではないか。
- ゲーム・メール依存症などの悪影響は重大だが、単にメディアを一律に拒絶すれば、家族の会話や絆が深められると考えるのは早計だと思う。個人的には、様々なメディア媒体の利用を控えながら考えるのではなく、上手に使いこなしながら家族の絆や情報のやり取りを深める方法を尊重したい。
- こうした場で、意見を交わすことは重要だが、もっと大切なのは、深めた議論で結果を出すこと、そしてスピード感である。私は、そのことを意識したい。
- 藤崎委員 ○ テレビを消すとコミュニケーションが復活するかが問題である。福岡には、メディアを使ってコミュニケーション能力を深



めようとする取組を進めているNPOがある。携帯電話などのメディアを手にした子どもが、自己コントロールが効かなくなることが弊害であり、メディアそのものを使いこなす能力を養うことが求められている。

山田委員

○ 綾町では、子どもたちが公民館に登館する取組を行っている。地域の方々と団子を作ったり、川で遊んだりする自然の中でふれあう取組である。その中で社会のルールを教えている。パソコンなどメディアとの接し方なども、社会のルールとして、保護者が自分の責任で教えていく必要がある。

鈴木委員

○ 串間市立有明小学校では、「学校支援地域本部事業」の他、「子どもの生活リズム向上支援事業」にも学校とPTAが連携して取り組んでいた。その取組の一つとして、テレビを見ることをとおしてコミュニケーションができる場合があるため、「ノーテレビ・デー」ではなく「ノーテレビ・タイム」の取組を行った。「クローズアップ現代」や「ウルトラセブン」など、子どもに見せたいいい番組は、子どもが起きている時間にどんどん放映してほしい。

○ 「家読」の取組として、10数年前から、「有明タイム」を設定し、親子10分間読書をして、感じたことを語り合う取組を行っている。

宮本委員

○ 新富町では、「読書の町づくり」を掲げ、町内全小中学校でファミリー読書に取り組んでいる。読書をとおして豊かな心を育てることが目的であるが、家庭で親子が向き合う時間の確保もねらっている。多忙な親が多く、難しい状況があるが、子育てには、子どもと共有する時間を作ることが大切である。このような取組の周知を図っていくためには、地域の関係団体との連携・協力が大切である。また、それぞれの自治体が地域の特性や課題を見据え、自治体を挙げて取り組んでいくことが重要である。

○ メディアのことが出されたが、今の情報社会にあって、子どもたちには様々な情報を取捨選択して活用する能力の育成を図っていく必要がある。

長鶴委員

○ メディアからはいろいろな情報があるが、子どもたちが、取捨選択して活用する能力の育成をみんなで考える必要がある。

○ 性教育に関する情報は、メディアをとおしてあふれており、子どもたちには、それを見極める力が必要である。今、実践しているのは、方法論ではなく、子どもたちの「考える力」の育成である。子どもたちに「いかに自分が生まれ生まれてきたのか」や「自分を大切にすることはすばらしいことである」ことの話をしている。自分の体の変化は、自分にとって大切なことだと理解させ、自分を大切にすることが重要である。

○ 基本計画の中にある「将来の親世代を育成する教育の推進」に関して、大切なことは、「子どもたちが、自分の体を大切にできるか」であり、「自分の体を知り、自分を大切にできる教育」が入るといい。

宮本委員

○ 将来責任のある親になるための教育は、義務教育の段階からしっかりと

行っていくべきと考えている。
中学校では、心と体の成長や家庭生活などについて、保健体育科や家庭科の授業で計画的に指導している。



- 特に性教育については、高校や大学の段階では、遅いと感じている。中学校では3年間で段階を追って学べるようプログラム化したり、参観日に助産師の方を招聘して参観授業や懇談会を実施したりしている。

森山議長

- 教育を考える時は、「本質論」が大事である。これをこの会では深めていきたい。

藤崎委員

- 子育てに関わる問題で、自分の子どもをペットのように扱う親がいる。子どもは産まれるものか、産むものか。子どもは授かったものという感覚がうすれている。与えられた命を大切にする教育が大事である。

横山委員

- 食育が、大事である。核家族が多くなった現在であるが、私たち農家は、2～3世代が同居しており、日々の生活の中で、見守り、子育てをしてきた。そのような家庭のほとんどの子どもは、素直に育っている。自分の家庭だけ、自分だけがよければという考え方がいけないと思う。そのような中、私たちJAでは、農家に子どもたちを宿泊させる取組をしており、お年寄りや地域の方々から命の大切さを教えていただいている。
- 先日、熊本で聞いた「コウノトリのユリカゴ」に関する講演会の中で、理事長が、低年齢での出産が目立つことから、原点にもどって、もう一度命の大切さを見直す必要性があるのでないかという話をされた。大震災から学んだことは、命の大切さを考えるのが一番大事だと考える。

白水委員

- 県民総ぐるみによる教育の推進の中で、具体的な意見を三つ述べたい。
一つは、「家読」である。子どもたちが、図書館から本をカードで借りることができることを知らなかったことに驚いた。周知不足ではないか。
また、無料でインターネットを使用できる施設や17:00以降も利用できる社会教育施設を教えてあげることも必要ではないか。
- 二つ目は、「企業の協力」である。PTAや子ども会育成会等の役員で、平日に仕事を休みにくい人もいる。地域活動などにボランティアとして協力する方々が出やすいように企業に要請してみることも考えられる。
- 「ソフリエ」という言葉がある。「ソフ」は「おじいちゃん」のことを指す。団塊の世代と言われ、仕事を退く多くの方々の「祖父の力」を生かすことも大切なことではないか。

長鶴委員 ○ 祖父力という言葉の具体例として、私が宮崎に帰ってきた時、孫の手をひいたおじいちゃんがたくさんいることに驚いた。世代間のつながりは、宮崎のよさである。祖父力を取り入れた事業は展開できないだろうか。

久保田委員 ○ 私が都会に出た時、「若いもんはダメだ」と怒られた。そして今、躰をされていない、教育できない親がだんだん多くなった。その子どもが親になる。子どもを教育すると同時に親を教育しなければダメである。親が本を読めば、子どもも本を読む。良い子どもを育てるには、真似をされても良い親になることが大切である。

山下明委員 ○ 子ども会は、「地域の子どもは地域で育てる」ことを目標としている。私たちの地域では、公民館活動の中で「子ども会活動」の取組をしている。親子で何かをする機会を増やし、家族のコミュニケーションを増やすことが大切である。親子の会話が増えたと言われる活動をやりたい。

福田委員 ○ 県教育委員会が推進する、企業に教育への貢献を促す仕組みは重要と思う。その際、教育現場のニーズと企業側の事情をうまくマッチングさせることが課題となるが、企業サイドからすれば、各学校の事情、地域の子供会やPTA活動状況を十分理解しているとは言えない。私たちNHKでは、独自に県内の学校を訪問して、番組「課外授業 ようこそ先輩」を参考に、仕事のプロセスとやりがいを体感してもらおう試みを続けている。そうした試行錯誤のご報告もするので、ぜひアドバイスをいただきたい。

森山議長 ○ 今日は、それぞれの委員からすばらしい御意見をいただいた。山下副議長からまとめをお願いしたい。

山下副議長 ○ 本日の会議は、具体的な取組、実践化を図っていく上でポイントを押さえた議論ができた。その中で、今後、本会議において議論すべきテーマがいくつか挙がってきたと思う。

○ 第一に、「メディア」の問題である。この問題については、やはり遮断する環境を形成していくことは困難であることから、議論の中でも多くの意見が出たように、やはり「選び取る力」をいかにつけていくかが課題となるであろう。

○ 第二に、「性やジェンダー」の問題が挙げられる。これは、大事なテーマであり、また関連してデートDVの問題なども考えていく必要がある。

○ 第三に、「食育」、そして第4に「読書」を通じたコミュニケーションと



いったテーマが浮かび上がってきた。

- 第一、第二のテーマは、学校教育現場での取組が中心であり、社会教育の場での取組というのは、これまでほとんど見られないと思う。こうした現代的課題を社会教育の場で議論することは、とても意義深いように思われる。また、第三、第四のテーマも社会教育における古くて新しい課題として重要である。いずれにしても、「自分を大切にすること」、「命を大切にすること」が以上のテーマに共通しているように思うので、こうしたことを最終目標として、具体的課題の設定などを行っていければと考える。

森山議長

- 本日は、よい議論ができたと思う。次回もよろしく願いして、会を閉じたい。